



令和7(2025)年度 会報第44号

旭川ユネスコ協会

平和への貢献は地域から



会長 林 朋子*1

14代会長 林 朋子

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イランをめぐる核と報復の連鎖の拡大、ガザ地区での戦闘激化など、子どもたちの学びの場が奪われる状況は今もなお世界各地で続いています。アジアにおいても、ミャンマーやタイ・カンボジア国境地域では、地域紛争が絶えません。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章前文の言葉は、第二次世界大戦の終結から80年を迎えた今日、改めて私たちの胸に響きます。

おかげさまで旭川ユネスコ協会は、多くの皆さまのご理解とご協力を賜り、2025年度のすべての事業を無事に終えることができました。会員の皆様、ならびに関係各位のご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。さらに、2026年1月22日には旭川市立大学と連携協定を締結し、新たな歩みを始めることとなりました。同大学との協定のきっかけとして、コロナ禍により中止もやむなしと思われた「外国青年日本語主張発表会」を継続するために、留学生4名にスピーチ発表の機会を提供し、熱心なご指導をいただいた地域連携センター大野教授をはじめ、多くの方々のご尽力がありました。このつながりの広がりこそ、ユネスコ活動の原点であると感じています。

現代の日本社会では、多様な文化や価値観を尊重することが求められる一方で、自分と異なる考え方や行動に戸惑いや不安を覚えることもあります。そのような時にこそ、相手を理解しようとする「対話」の大切さが試されます。そしてその前提として、互いをよく知り、学び合う姿勢が欠かせません。

ユネスコの目的は、教育・科学・文化を通して世界の平和と人類の福祉に貢献することにあります。私たちはその理念を胸に、互いを尊重し、思いやりの心をもって行動してまいります。平和への貢献は、足元である地域から始まるとの思いを新たにしております。

2026年度も、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます



(右のQRコードでご覧いただけます)

*1 日本ユネスコ協会連盟理事（北海道ブロック代表） あさひかわ創造都市推進協議会副会長

【目次】

1. 2025年度のあゆみ	2
2. 組織・普及部の活動	3・4
3. 国際交流・女性部の活動	5～7
4. 青少年・学習部の活動	8～12
5. ユネスコスクール実践事例	13・14
6. 第81回日本ユネスコ運動全国大会 in 金沢	15
7. 第58回北海道ユネスコ大会 in 江差	
2025年度北海道ブロックユネスコ活動研究会	15
8. 旭川市議会子育て文教常任委員会委員との懇談会	16
9. 旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部と連携協定締結	16
10. 第58回科学の夢の図画コンクール	17

2025年度のあゆみ

月	日(曜日)	事業内容	会場	担当
4	4日(金)	役員選考委員会	かふえさーしゃ	役員選考委員
	19日(土)	北海道ユネスコ連絡協議会常任理事会	札幌市	事務局
	22日(火)	定期総会	ときわ市民ホール	各部・事務局
5	13日(火)	例会	ときわ市民ホール	事務局
	18日(日)	北海道ユネスコ連絡協議会事務局長会議 北海道ユネスコ連絡協議会定期総会・交流会	札幌市	事務局
6	10日(火)	例会	ときわ市民ホール	各部・事務局
	21日(土) 22日(日)	あさひかわデザインウィークまちなかキャンパス 2025	旭川平和通買物公園	組織・普及部
	24日(火)	ZOOM 運営会議		各部・事務局
7	5日(土)	世界寺子屋運動ユネスコキャンペーン	旭川平和通買物公園	国際交流・女性部
	8日(火)	ユネスコビールパーティ	和風旅館扇松園	組織・普及部
	26日(土)	ZOOM 運営会議		各部・事務局
8	6日(水)	青少年体験学習	木と暮らしの情報館	青少年・学習部
	12日(火)	例会	ときわ市民ホール	各部・事務局
	26日(火)	ZOOM 運営会議		各部・事務局
9	9日(火)	例会	ときわ市民ホール	各部・事務局
	11日(木)	旭川市議会子育て文教常任委員会委員との懇談会	旭川市議会	各部・事務局
	30日(火)	旭川市立大学打合せ(連携協定関係) ZOOM 運営会議	旭川市立大学	事務局 各部・事務局
10	14日(火)	例会	ときわ市民ホール	各部・事務局
	18日(土)	ミズナラ植樹活動	ホテルの里広場	青少年・学習部
		第81回日本ユネスコ運動全国大会 in 金沢	石川県金沢市	事務局
	26日(日)	第58回科学の夢の図画コンクール表彰式(後援)	旭川市科学館	事務局
28日(火)	ZOOM 運営会議		各部・事務局	
11	11日(火)	例会	ときわ市民ホール	各部・事務局
	15日(土)	第58回北海道ユネスコ大会 in 江差 2025年度北海道ブロックユネスコ活動研究会	檜山郡江差町	事務局
	22日(土)	第35回小・中学生ユネスコ作文コンクール表彰式	サンアザレア	青少年・学習部
12	2日(火)	東川町訪問(第33回外国青年日本語主張発表会関係)	東川町庁舎	国際交流・女性部
	11日(木) 12日(金)	ユネスコ年末交歓会 第33回外国青年日本語主張発表会・表彰式	旭川お城の鯉寿し 旭川市立大学	組織・普及部 国際交流・女性部
1	13日(火)	例会(新年の抱負を語る会)	ときわ市民ホール	各部・事務局
	22日(木)	旭川市立大学連携協定締結式	旭川市立大学	事務局
	24日(土)	北海道ユネスコ連絡協議会新年午餐会	札幌市	事務局
2	3日(火)	旭川西ロータリークラブ例会での事業説明	旭川アートホテル	事務局
	10日(火)	例会(ユネスコ講演会)	ときわ市民ホール	組織・普及部
3	10日(火)	例会(2025年度の成果と課題及び2026年度計画)	ときわ市民ホール	各部・事務局
	24日(火)	ZOOM 運営会議		各部・事務局
	31日(火)	会報第44号「旭川ユネスコ協会」発行		事務局

通年事業	世界寺子屋運営委員会
	書きそんじハガキ等「タンス遺産」回収
	公益社団法人北海道森と緑の会募金

あさひかわデザインウィーク まちなかキャンパス2025

—まちなかキャンパスと持続可能な未来へ—

6月21日(土)・22日(日) 旭川平和通買物公園

まちなかキャンパスは、互いに学びあえる屋外型の教育イベントなのですが、今年は前年よりも多くの方がユネスコのブースへも足を運んでもらいました。「また来たよ!」とお声をいただき、今年も学びの時間をユネスコブースで過ごしてくださるなど、終始盛況でユネスコ協会のみんがなかなかの忙しさだった“まちキャン”でした。

開催は6月の2日間、旭川ユネスコ協会は旭川市と共催しておりますが、本協会のブースでもどんな人にでも足を止めてもらうには、少しでも滞在してもらうには、次回のまちキャンでもより楽しく有意義な時間にできるように次回の出展に意気込んでおります。

まちなかキャンパス…ってなんだろう。それは、教育に関わる無限大な可能性が未来へ続いていき、ずっと明るい課題が在ってゆくものだからかなあ〜と私は考えております。「まちなかキャンパスってなんだろう」が学生から学生へそして学生からすべての人へ興味関心学びへとつながっていく事がユネスコ憲章にもある“平和”への道のひとつではないでしょうか。



ユネスコビールパーティー



7月8日(火) 和風旅館扇松園

本年もホテルではなく郊外にある人気のお店を利用しました。おいしい料理をいただきながら皆さん楽しくお話をしているうちに、お待ちかねの「チャリティオークション」。進行役の頑張りもあって大盛り上がり。会場にはたくさんの笑顔があふれ、予定の時間が瞬く間に過ぎた楽しい会になりました。今回も沢山の善意が集まり活動資金創出に感謝です。



笑顔溢れる一年のしめくり！

ユネスコ年末交歓会

12月11日（木） 旭川お城の鯉寿し

年の瀬、組織・普及部の最後の事業です。沢山の事業に精一杯取り組んだ一年の活動を振り返り、互いの健闘を讃え合うこのひとときは、まさに私たちのなかに「平和の砦」を築く大切な時間です。お待ちかね、例年以上の品揃えで熱気に包まれた嬉しい楽しい「チャリティーオークション」。会員相互が温かな気持ちを持ち寄った多種多様な品物が出品され、沖縄の海底で熟成された琉球古酒なるお酒から、すぐに使える日用雑貨まで。いつも通り、司会の鮮やかな進行で次々と落札され、笑いあり拍手喝采ありの会場内は今年も笑顔で一杯となった「年末交歓会」でした。



貴重な学びの場

ユネスコ講演会

2月10日（火） ときわ市民ホール

令和7年度定期総会において「ユネスコ講演会は知見を広げる場」と設定し、様々な分野から講師をお招きし、毎年学びの場としてきました。今回は隣町である東川町のトップとして同町の知名度を全国区にまで押し上げた前町長の松岡市郎氏（現東川国際文化福祉専門学校企画コーディネーター）を講師にお招きし、「地域の宝もの探しと文化財を活用したまちづくり」について御講演いただきました。会員・賛助会員に加え、市議会議員、旭川市立大学、一般聴講者が会場を埋める中、主に“既成概念にとらわれない発想の転換により埋もれている「まちの宝」を見いだすことで自治体が生まれ変わる”と御自身（東川町）で取り組まれた実例をパワーポイントで分かりやすく、且つ熱く御示唆をいただき、圧倒された一時間でした。今後も、講演会を有効に活用することで、活動の幅を広げていきたいと思っております。



『地域の宝もの探しと文化財を活用したまちづくり』
講師：前東川町長 松岡市郎 様 令和8年2月10日



令和7年度

ユネスコキャンペーン

旭川ユネスコ協会

国際識字教育 「世界寺子屋建設」 募金活動

2025年7月5日

旭川市平和通買物公園

世界には、学校に行けない子どもが約1億2100万人、文字を読めない人が約7億7300万人います。文字を読めなために貧困の連鎖から抜け出すことができません。ユネスコは、世界中が平和になるために、すべての人が教育を受けられるように、寺子屋を建てて応援しています。

今年も「らんけい保育園学童クラブ」の皆さんと街頭募金活動を行いました。この募金でお預かりしたお金は、日本ユネスコ協会を通じてカンボジア等の寺子屋建設と運営資金として有効に使われます。



子どもたちの元気な声が響きます



ユネスコ世界寺子屋運動「書きそんじハガキ」収集キャンペーン結果（3月1日現在）
ハガキ各種852枚、切手各種10枚、
～17枚のハガキで1人がひと月、学校に行けます。世界の学びを救いましょう！～

第33回 外国青年日本語主張発表会

- 1 行事目的： 異なる文化・価値観を尊重し合い、共生社会を創るユースの育成
- 2 主催・共催・後援・協賛： 右ページに記載
- 3 出場・受賞者一覧

①演題 ②留学生氏名（国籍、所属校）

旭川市長賞	①「異邦人から市民へ私を変えた旭川との対話」 ②ハイ スイ（中国、旭川市立大学）
教育長賞	①「小さい国から見る世界」 ②マフカンバエワ シャフロ フサン キジ（ウズベキスタン、東川日本語学校）
東川町長賞	①「留学生としての経験」 ②ニトゥ カルキ（インド、旭川永嶺高校）
NHK 旭川 放送局長賞	①「返信」 ②リー ジーフアン（台湾、東川日本語学校）
北海道新聞 旭川支社長賞	①「夢は逃げない」 ②ハイダル ファヤド ガイサン ムストファ （インドネシア、東川日本語学校）
旭川 ユネスコ 協会会長賞	高校生の部；①「留学して感じていること」 ②イブ ジャックリーヌ キンシネロス アスペ（メキシコ、旭川藤星高校） 大学生の部：①「国をこえて心がつながる時代へ」 ②リ ケンシュン（中国、旭川市立大学） 一般・各種学校の部：①「留学して感じていること」②ミルザエヴァ マデナ ホルム マハド キジ（ウズベキスタン、東川日本語学校）
旭川 ユネスコ 協会奨励賞	①「自国と日本との違い」 ②エイドリアン ランド（スウェーデン、旭川志峯高校） ①「七夕」 ②リム ソンホ（韓国、東川日本語学校） ①「AI（人工知能）とその仕事や生活への影響」 ②トゥルオン ティ タム ニュ（ベトナム、東川日本語学校）

2 審査委員 （敬称略）

旭川ユネスコ協会会長 林 朋子、旭川市教育委員会社会教育部長 田村 司
旭川市立大学短期大学部副学長 豊島琴恵、旭川ユネスコ協会参与 蝦名信幸

3 成果と課題

- 東川町立東川日本語学校との連携発展、「東川町長賞」の贈呈
- 旭川市立大学との連携協定締結へ発展、○学生主体の国際交流会発生継続
- 協賛会社の留学生支援
- △地域コミュニティーへの発展策（開催時期・場所・内容・運営方法などの検討）
- △地域全体で外国ルーツの人達について考える展望（世界平和と福祉）



第33回 外国青年日本語主張発表会



とき
ところ

令和7年12月12日 17:00~
旭川市立大学短期大学部2F

主催 旭川ユネスコ協会
共催 旭川市立大学

後援

旭川市 旭川市教育委員会
東川町 旭川市国際交流委員会
NHK 旭川放送局 北海道新聞旭川支社
あさひかわ新聞社
株式会社 道北アークス
東日本損害調査北海道(株)
登揚建設(有)

協賛

8か国1地域 11人の留学生が日本語でスピーチ

この行事は、旭川市及び近郊の高校・大学・各種学校で学ぶ留学生達が日本語でスピーチをします。

国と国の間に国境があっても、人と人の間に国境はありません。各国の若者たちは、すぐに仲良くなります。今年は、8か国1地域から11人の留学生が日本語でのスピーチに出場しました。

日本初の公立日本語学校「東川町立東川日本語学校」を擁する東川町から「東川町長賞」が贈呈され、町長 菊地 伸 様が授与下さる栄を賜りました。

発表会後に開催された「クッキー&ジュースパーティー」は今年も大変喜ばれ、その後も互いの交流が続いています。

出場者

- 高校生 3名 AFS 旭川支部
- 大学生 2名 旭川市立大学
- 一般・各種学校 6名 東川日本語学校



旭川ユネスコ協会
会長 林 朋子



旭川市立大学
理事長 高瀬 善朗



東川町長
菊地 伸 様



旭川市教育委員会
文化振興課長 坂本 剛 様



旭川ユネスコ協会 2025年度 ミズナラの植樹活動 関連活動

「森のこと、樹木のこと、豊かな自然」興味のある人 集まれ～!



第1回 活動 2025.8.6

「樹木のことをもっと 知ろう」

樹木と触れ合う体験をしよう

道林産試験所内「木と暮らしの情報館」

協力 北海道林産技術普及協会

第2回 活動 2025.10.18

「ユネスコの森に ミズナラの木を植えよう」

西神楽ホテルの里(ホタキラ)

「ユネスコの森」

協力 上川中部森林管理署

旭川西神楽ホテルの会

(令和7年度「北海道森と緑の会公募事業」)



令和7年度のミズナラ植樹活動は、2つの活動を連携させて実施しました。第1回目の活動には植樹活動に繋がる体験活動(ワークショップ:木の葉の押し型トートバッグづくり)を実施、第2回目の活動は従来からの植樹活動を行いました。体験学習では、木の葉の違いなどの学習を生かした制作活動を、植樹活動では、植樹ばかりでなく樹木の管理や森の様子などの森林学習、豊かな自然環境に生息するホテルについての学習など、たくさんのことを学び体験した活動となりました。ご協力いただいた関係機関、関係者の皆さんに感謝いたします。



第35回 小・中学生ユネスコ作文 表彰式

2025年11月22日(土)13:00~
旭川建設労働者福祉センター



小学校 最優秀賞の授与



賞状の授与 (欠席のため 代理受賞 奈良教諭)
中学校最優秀賞
春光台中3年 鳴海柚花 さん



最優秀作文の朗読
小学校最優秀賞
東町小6年 向井絢音 さん

主催 旭川ユネスコ協会
後援 旭川市教育委員会
協賛 株式会社 道北アークス

ご来賓

旭川市教育委員会
教育長 野崎 幸宏 様
旭川市西神楽ホテルの会
事務局長 坂本 征文 様



関連団体の活動紹介

環境・自然保護に取り組む
「旭川市西神楽ホテルの会」の
活動から保護活動の様子を学ぶ



第 35 回 小・中学生 ユネスコ作文コンクール 受賞者 一覧

■ 小学校の部

最優秀賞 世界の飢餓と、私たちにできること
 優 秀 賞 さげられない自然災害と平和
 地球温暖化と平和
 戦争と平和
 地球温暖化と平和
 心の健康と世界平和について
 いじめと平和と旭川の対策
 高齢化社会と付き合っていくために
 平和を守るためにできる事

優 良 賞 24 作品

33 作品

東町小学校 6 年 向井 絢音
 東町小学校 6 年 安藤 秀大
 東町小学校 6 年 遠藤 百桜
 東町小学校 6 年 粕谷 英寿
 東町小学校 6 年 関口つばさ
 東町小学校 6 年 高綱 優羽
 東町小学校 6 年 谷 優花
 東町小学校 6 年 塚田 和紗
 東町小学校 6 年 山本 夏央

■ 中学校の部

最優秀賞 世界に広がれ 平和の輪
 優 秀 賞 裸足の笑顔に映る希望
 ゴミをへらすために自分ができることは？
 「伝承を生かす」
 平和ってなんだろう
 終戦 80 年を迎えて思うこと
 人が平和になれない理由
 地球温暖化について
 私たちの未来
 世界中を幸せにするには
 涙の中の、光
 戦争と平和

優 良 賞 25 作品

37 作品

春光台中学校 3 年 鳴海 柚花
 春光台中学校 1 年 大石かのん
 春光台中学校 2 年 伊藤 美月
 春光台中学校 2 年 木曾 彩芭
 春光台中学校 2 年 山村 美空
 東鷹栖中学校 2 年 伊東芯一朗
 東鷹栖中学校 2 年 伊藤 弘輝
 東鷹栖中学校 2 年 大塚穂乃里
 東鷹栖中学校 2 年 楠原 瑛太
 東鷹栖中学校 2 年 齋藤 楓真
 東鷹栖中学校 2 年 中山 羽菜
 光陽中学校 2 年 三橋 愛莉

審査員 講評

青少年学習部 安藤 邦行

この度のユネスコ作文に応募いただきありがとうございました。
 今回の応募数は、小学校 1 校 33 作品、中学校 3 校 37 作品でした。
 このユネスコ作文に取り組んで下さった皆さん、各学校並びに担当の先生方、保護者の皆さんに心から感謝を申し上げます。

今回の作文を審査して、印象に残ったことが二つあります。

一つは、自分のテーマについて、しっかり調べて作文にまとめていたことです。インターネットや書物、家族の話や体験など、テーマに関わる情報や自分の考えを裏付ける事柄を丁寧に調べていたことに感心しました。

二つ目は、調べることで「知ったこと、わかったこと」から、今まで「当たり前だ」と思っていたことが、実は「当たり前ではなかった」ことに気づいた人が多かったことです。

そして、今まで「他人のこと」だと思っていたことを「自分のこと」としてとらえ、今の自分に何ができるかを考えた作文がとても多かったことです。

今回最優秀賞の二人の作品は、そうしたことがよく表れていた作文でした。テーマの難しい内容やたくさんのデータを、できるだけ自分の言葉でわかりやすく伝えようとしています。そして身近なところから今の自分たちにできることを呼びかけています。

小学校最優秀賞の旭川市立東町小学校 6 年 向井絢音さんは、「飢餓を解決することが平和に繋がる」として、飢餓の意味や世界の飢餓の様子を調べました。そして、解決する方法の中から、「自分たちのできること」の一つとして「フードロスを少なくする」ことに目を向けています。

中学校最優秀賞の旭川市立春光台中学校 3 年 鳴海柚花さんは、「私たちが普通に過ごしているこの瞬間でも、世界のどこかで尊い命が奪われている」ことを知り、世界の平和について考えました。

二度と同じ苦しみや悲しみをくり返さないために、今自分たちができる小さな日々の積み重ねこそが 大切だと訴えています。

もちろん二人のほかにも、紹介したい素晴らしい作品が数多くありました。

最後に、今回のように調べた情報をどのように作文に生かすかについて考えてほしいと思います。

調べていくと、たくさんの情報に出会いますが、得られた情報から、皆さんが何に気づき、今の皆さんが何をすることが大切なのかをまとめることです。大人の考えではなく、今の皆さんのできること、これから進むべきことをまとめることです。

そんなことに注意して、これからも皆さんの澄んだ目で、社会のことを見つめてほしいと思います。素晴らしい作品を応募してくれた皆さんに心からお礼を申し上げて講評といたします。

最優秀賞 受賞作文

< 小学校の部 >

世界の飢餓と、私たちにできること

旭川市立東町小学校 6年 向井 絢音

私は、今世界各地で起こっている、飢餓を解決することが、平和に繋がると考える。

なぜなら、飢餓は、生命に関わる問題であるからだ。

そもそも飢餓とは、十分な食べ物を食べられずに栄養不足になり、健康を保つことができなくなった状態のことだ。そんな状態が続いてしまうと、認知機能や免疫力の低下により、感染症にかかりやすくなる。そして、最悪の場合、命を落とすことになってしまう。

現在、子どもから大人までおよそ 8 億人が、飢餓に苦しめられている。そんな飢餓を少しでも早く解決するためには、私たちにできることを探し、実行することが大切だと、私は考える。そして、それがどんなに小さなことでも助かる人がいるということ、忘れないでほしい。

これからその、「私たちにできること」の具体的な例を挙げていこうと思う。

まずフードロスを少なくするということ。フードロスとは、本来食べられるのにも関わらず、廃棄されている食品のことであり、日本では年間 523 万トンが廃棄されている。

そんなフードロスをなくすためには、一人一人の食べ残しを減らすことが大切だ。たとえ苦手な食べ物も少しでも食べて、残る量を減らす。あなたが廃棄した食べ物は、まだ食べられるということ。その食べ物を求めている人がいるということを忘れず、フードロス削減を心がけてほしい。

次に、地産地消を意識するということだ。自分の国で生産された食べ物を、自分の国で消費する地産地消は、食料自給率を高め、輸入に頼るリスクを減らすことができる。これにより、もし仮に食糧輸入がストップしてしまっても、飢餓に迫る可能性を低減することができるのだ。

そして最後に、支援団体の寄付を行うということだ。

飢餓問題に取り組む支援団体へ寄付を行うことにより、食料を提供できるだけでなく、感染予防などの健康を支える取組や医療機関との連携による治療などの、様々な取り組みに貢献することができるのだ。

また、少額からでもできる支援に参加できるというメリットもある。

このように、現在世界各地で起こっている飢餓を解決するために、私ができることがあるのだ。

今後、挙げた例などを中心に、飢餓を解決するために活動していこうと思う。そして、たくさんの人々が協力し、少しでも早く飢餓がなくなり、平和が訪れることを願っている。

世界のどこかでは、空から爆弾が落ちてくる日々を過ごしています。同時に、私たちの居場所では今日も平和な一日が始まろうとしています。この違いはとても大きく、私たちが普通に過ごしているこの瞬間でも命が奪われていると知って、私が平和について考えるきっかけとなりました。

そこで、私は最近ニュースで見るロシアとウクライナの戦争について調べてみました。

2022年に開戦し、ロシアが突然ウクライナに軍事侵攻したことがきっかけで戦争がはじまり、ウクライナの人々は家族と離れ離れになったり、学校に行けなくなったりしていました。また、日本がウクライナに対して人道や食料、発電機や変圧器などのエネルギー関連機材の供与等支援を行っています。日本以外でも多くの国が、様々な形でウクライナをサポートしています。このことから、世界中の人々が平和を強く願っているのだと思います。

私は、毎日家族や友達と一緒に過ごして普通に学校に通えることが当たり前の生活だと思っていました。しかし、ウクライナの人々の過酷な生活を送っている様子をニュースで見て、当たり前だと思っていたことが本当はすごく大切だということに気づきました。平穏な生活で過ごせる毎日、もし同じような困難な状況に陥れば簡単に壊されるという事実を知りました。

平和な毎日とは、私たちが普段で当たり前と思える毎日がどんなことよりも特別で大事なことだと考えました。また、家族と友達と一緒に過ごせるのは、平和な毎日があってこそ過ごせると気づきました。

実際に、日本でもかつて戦争の中で広島や長崎に原子爆弾が落とされ、多くの人々が当たり前だった毎日が一瞬にして失われてしまいました。原爆は世界最悪な核兵器だと思います。

原爆が落とされたのは約80年前のことですが、あの日の悲しい出来事は今でも人々の心から消えることはないと思います。たった一発で都市を壊滅させ、多くの人々の命や幸せを奪いました。広島ではおよそ14万人、長崎ではおよそ7万人が亡くなりました。広島の中学校では、爆心地から900メートルほどの屋外で作業をしていて、強烈な熱線で皮膚は焼けただれて全身に致命的なやけどを負った人々もおれば、爆風によって地面に叩きつけられたり飛んできたがれきによって傷つけられたりした人々もいたそうです。生き延びた人たちでも、目に見えない放射線の影響で、急性放射線障害や白血病などが発症しやすくなっていました。また、身体の被害だけではなく、精神的なショックから立ち直れずに苦しむ人もいました。

このように、原爆による被害はとても深く長く続いており、生活にまで大規模な影響を与えています。だからこそ、私たちは二度と同じ悲しみや苦しみをくり返してはいけません。

原爆の恐ろしさや、そこで奪われたものの大きさを私たちはしっかり学び、戦争や原爆の悲しみを二度とくり返さないという気持ちを日々の生活で命や友達、家族を大切にするという形で守り、小さな優しさや思いやりを毎日積み重ねていくことが、未来の平和を守る重要な第一歩になるのだと思いました。

私の学校でも、みんなで千羽鶴を折って長崎に寄贈するという取り組みを毎年行っています。一枚一枚の鶴には、戦争やいじめのない世界、世界中の人たちが安心して安全な生活が送られるようにと願いを込めて折っています。

出来上がった千羽鶴が長崎に届いたとき、自分たちの小さな願いが世界につながっていくのだと思うと、とても嬉しい気持ちになります。また、平和を守るためにはこうした活動だけでなく、一人一人が毎日の生活の中でできることを考えていくことも大切だと思いました。

今後、私ができる平和のための行動は、まず身の回りの人を大切にすることだと思います。友達や家族と仲良くしたり、いろいろな人の考え方を受け入れることは小さなことかもしれませんが、その小さな積み重ねがやがて世界の平和に繋がっていくのではないのでしょうか。

そして、平和について考え続けることもとても大切です。ニュースで戦争などのことを知ったときは、自分にできることは何かを考えたり、家族や友達と話し合ったりすることで、平和への意識を持ち続けることができると思います。

世界には、今も核兵器や争いにより平和が危険にさらされています。しかし、原爆の被害を知る私たちが平和について考え、深め合うことによって一人一人が命の大切さ、争いの悲しさを考えるきっかけになるとは思いませんか。違いを越えて、協力し合ってみんなが安心安全に暮らせる世界がつかれるとは思いませんか。

世界平和は夢じゃなく、私たち一人一人の力で造っていくものだと感じます。

2025年度ユネスコスクール実践事例

旭川龍谷高等学校

I 本校の活動の特徴・活動全体計画

本校は、仏教精神に基づいた「知育・徳育・体育」を教育の基本方針として、校訓「慈光照曜」のもと、E S Dを報恩感謝の心を大事にする教育活動と捉え、E S Dの実践を通して心豊かな生徒の育成を目標としています。具体的には、外国語教育・国際理解教育を重視した教育を推進するとともに、郷土文化への理解を深める活動や社会福祉活動に積極的に取り組んできました。ユネスコスクールとしては、これらの活動を継続・発展させ、生徒一人一人に持続可能な社会の担い手に必要な知識・能力・態度・価値観を身につけさせることを柱に、①国際理解に係わる活動、②郷土理解に係わる教育、③社会貢献に係わる学習を行いました。

II 活動事例

①国際理解に係わる活動

1. 外国人講師による英会話授業を実施しています。

2. 2024年度には国際交流部（ICR）を立ち上げ、高文連高校生国際理解の集い等に参加するなど国際文化などへの理解を深めていきました。



【写真1】国際交流部の活動の様子

②郷土理解に係わる教育

1. 各種行事への参加・協力

「まちなかキャンパス」に本校の郷土部が文化の多様性の尊重を趣旨に平和通買物公園にて主に旭川市内・近郊の小学生を対象にアイヌ文化の紹介と実演を行いました。

2. 各種儀式への参加・協力

「カムイコタンまつり」に参加し、神居古潭の安全祈願で「上川アイヌ伝統の輪踊り」を体験した後、アイヌ記念館でのイベントにも参加しました。



【写真2】カムイコタン祭りの様子

③社会貢献に係わる学習

1. インターアクトクラブの取組

全道ボランティア研究大会・赤い羽根共同募金の活動・旭川市障害者スポーツミニフェスタ・特別養護老人ホームで行われた敬老祭りに参加しました。

2. 生徒会を中心とした取組

生理用品の無料設置運動、コンタクトレンズの空きケースの回収運動、花壇再生プロジェクトを行いました。



【写真3】花壇再生プロジェクトの様子

3. 部活動の取組

吹奏楽部と合唱部が地域のお祭りやイベントに参加し、演奏を披露しました。

野球部が地域の高齢者住宅の雪かきボランティアを行いました。

Ⅲ 成果と課題

以前にも増して生徒が主体的に企画し行動する場面が見られました。また新たな取組を生徒会や国際交流部（ICR）などで取り組み、持続可能な社会の担い手として成長を遂げているかと思います。来年度以降も多方面での取組を充実させ、発展につなげていきたいです。



第 81 回日本ユネスコ運動全国大会 in 金沢

テーマ:「日常」能登半島の創造的復興を目指して

10月18日(土)石川県金沢市

令和7年10月18日(土)「第81回日本ユネスコ運動 全国大会 in 金沢」が開催されました。会場である「石川県立音楽堂邦楽ホール」は、随所に、金沢の歴史と文化が展示され、大変な学びをいただきました。

大会は、オープニングのジュニアジャズコンサートの演奏とダンスを始めとして、子供たちによる能と狂言の伝統芸能披露、また、井上あずみ&ゆーゆさんの、歌とお話コンサートと、続きました。

そののちのパネルディスカッションにおいては、「能登半島の創造的復興を目指して」というテーマで復興に尽力されている皆様のお話を聞かせていただきました。



日ユ協連 佐藤美樹会長を囲んで

第 58 回北海道ユネスコ大会 in 江差

2025 年度北海道ブロック・ユネスコ活動研究会

11月15日(土) 桧山郡江差町

第58回ブロック研究会は、「平和～花輪が輪になって広い世界を囲んだら～」をテーマに、江差町にて開催されました。旭川ユネスコ協会からは、林会長をはじめ6名が参加しました。

研究会の冒頭では、新型コロナウイルス感染症の影響により途絶えかけた町の祭りの灯を守ろうと結成された、有志の青年たちによる祭囃子が披露されました。地域の伝統を次世代へ継承しようと尽力する姿は、多くの参加者に深い感銘を与えました。

一方で、ユネスコ協会員の高齢化は全道的に進んでおり、世代交代が容易ではない現状も改めて認識されました。そのような中、江差町における若い世代の主体的な取り組みは、今後の地域活動の在り方を考えるうえで大きな示唆を与えるものでした。

また、ニシン漁で栄えた江差町の歴史や文化に触れる機会にも恵まれ、3日間の研修旅行は大変有意義なものとなりました。次年度は室蘭市にて開催予定ですので、多くの会員の参加を通じて、さらなる交流と理解が深まることを期待しております。



第58回科学の夢の図画コンクール

10月26日（日） 旭川市科学館

本協会が後援している同コンクールは、毎年子どもたちの発想の豊かさに驚かされます。大きな会場に応募作品を全て展示していることから多くの来館者が自由に見ることが出来、作品を見た子どもたちが更に発想を広げています。

旭川市長賞を始め十団体の賞が用意され、受賞者は誇らしく賞状と盾を受取っていました。本協会からの表彰は、小学生が旭川市立第三小学校4年中川結愛（ゆあ）さん「地球を守ってくれるタオル」、中学生が旭川市立神居中学校2年松田珠季（たまき）さん「えがおのタネ」でした。改めて、来年の作品が楽しみにになりました。

後援 旭川市教育研究会図工美術研究部、北海道発明工夫教育連盟、旭川発明協会、北海道新聞旭川支社、朝日新聞北海道支社、読売新聞北海道支社、NHK旭川放送局、札幌テレビ放送、旭川ユネスコ協会



えがおのタネ



地球を守ってくれるタオル

旭川ユネスコ協会

(令和7(2025)年度 ・ 令和8(2026)年度)

歴代会長	初代 長沢 節男 S47～S50	8代 河北 芳造 H1～H6
	2代 山崎 正英 S51～S52	9代 奈良 尚久 H7～H18
	3代 瀬住知栄子 S53～S54	10代 青山 儀松 H18～H18
	4代 奥村 一男 S55～S56	11代 六車 寛 H19～H22
	5代 敦賀谷 謙 S57～S58	12代 山上 雅己 H23～H26
	6代 山下 清 S60～S61	13代 藤原 一朗 H27～H30
	7代 高野美代子 S62～S63	14代 林 朋子 R1～現在

顧問	山崎 正英・山上 雅己
参与	横山 末子・蝦名 信幸

(以下五十音順)

会長	林 朋子
副会長	安藤 邦行・薄井 タカ子・和島 徹男
監事	浜田 富枝・森 映

業 務 分 担	理 事	担 当 会 員
組織・普及部 ・ 会員募集 ・ ビールパーティー ・ 年末交歓会 ・ 講演会	担当副会長 薄井 タカ子 事務局 畠山 晃美	安藤 伸・貝谷 則明 高木 百合子・高澤 善美 武石 陽一・西山 陽一 森下 元・米増 美保子
国際交流・女性部 ・ 寺子屋キャンペーン ・ 外国青年日本語主張 発表会	担当副会長 和島 徹男 事務局 藤平 忠久	蝦名 信幸・大川 幸子 北村 まさ子・田中 豊子 畠山 晃美・安田 彩矢香
青少年・学習部 ・ みずならの植樹 ・ ユネスコ作文募集 ・ ユネスコ出前授業	担当副会長 安藤 邦行 事務局 浜田 富枝	上野 和幸・蝦名 安信 神原 亜貴子・佐野 智子 品田 登起恵・藤平 忠久 森 宗一
世界寺子屋運営委員会		委員長 西山 陽一 委員 薄井 タカ子・藤木 学
事務局	会計担当 ・ 一般会計・特別会計 ・ 世界寺子屋建設 ・ 補助金申請, 実績報告	主務 貝谷 則明 副務 畠山 晃美
	事務担当 ・ 例会案内・各種審査, 報告 ・ 総会議案作成 ・ 会報編集	事務局長 森下 元 事務局次長 藤平 忠久 事務局員 田中 豊子・浜田 富枝・森 宗一

○会員名簿(令和7年4月1日～令和8年3月31日) (五十音順)

秋岡康晴・東国幹・安藤邦行・安藤伸・上野和幸
 鶴飼君江・薄井タカ子・蝦名信幸・蝦名安信・大川幸子
 岡田政勝・貝谷則明・神原亜貴子・北村まさ子・桑野紗耶加
 小敷澤明利・斎藤寛幸・佐野智子・塩尻英明・品田登紀恵
 高木百合子・高澤善美・高橋紀博・武石陽一・竹中英泰
 田中豊子・中村徳幸・西山陽一・畠山晃美・浜田富枝
 林朋子・林祐作・深野智仁・藤木学・藤平忠久
 三井あき子・森映・森宗一・森下元・安田彩矢香
 山上雅己・山崎喜美子・山崎正英・横山啓一・横山末子
 米増美保子・和島徹男

(47名)

○2025 (令和7) 年度賛助会員名簿 (五十音順)

No.	氏名	企業名
1	荒井保明	荒井建設株式会社
2	荒田祐一	東日本損害調査北海道株式会社
3	石川千賀男	株式会社トラストコーポレーション
4	伊藤友一	有限会社デザインピークス
5	大西久美子	株式会社大西時計店
6	小田桐雄	クリーンサービスダイシン有限会社
7	坂下薫	登揚建設有限会社
8	佐々木徹雄	旭川食糧株式会社
9	新谷逸生	新谷建設株式会社
10	染谷哲義	株式会社カンディハウス
11	茶山一利	株式会社須田製版旭川支社
12	中谷登	株式会社廣野組
13	中濱亜喜良	有限会社中工房
14	中村健	株式会社めがねのナカムラ
15	長谷川充	弘友設備工業株式会社
16	林宏一	医療法人社団東旭川宏生会
17	山崎雄吉	株式会社クランバーズ旭川支社
18	六車聖	株式会社道北アークス

入会のお誘い

あなたも一緒にユネスコ活動をしませんか！

連絡先 旭川市教育委員会社会教育部文化振興課 TEL25-7558 (直通)

事務局長 森下元 TEL090-6216-4451

年会費	一般会員 5,000円 (一緒に活動していただける方)
	賛助会員 10,000円 (活動を支援してくださる方)



旭川ユネスコ協会

国際連合教育科学文化機関憲章(ユネスコ憲章)／The Constitution of UNESCO

前文

この憲章の当事国政府は、その国民に代って次のとおり宣言する。

戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終りを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならぬ神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われぬためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに探究され、且つ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るためにこの伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、且つその憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。(以下省略。) [文部科学省 HP から抜粋]



令和7(2025)年度会報第44号「旭川ユネスコ協会」

発行日 令和8(2026)年3月31日

発行責任者 旭川ユネスコ協会会長 林 朋子

編集 旭川ユネスコ協会事務局

印刷 有限会社 日章印刷

事務所 070-8525 旭川市7条通9丁目 旭川市教育委員会社会教育部文化振興課内

TEL (0166) 25-7558 (直通)